

東京オリンピック・パラリンピックに向けた日本企業の取り組みを SNSで中国全土へ情報発信

－ 中国広東省大学生招聘プログラム －

期 間： 2018年7月30日(月)～8月3日(金)
協 力： 中国広東省人民対外友好協会、中国青年報社
参 加 者： 中国広東省の大学生6名
コディネーター： 渡辺 精一 経済広報センター国際広報部主任研究員

経済広報センターは、中国広東省人民対外友好協会、中国青年報社と協力し、7月30日から8月3日まで、ジャーナリストを目指す広東省の大学生6名を招聘した。一行は、「2020年に向けた企業・行政機関の取り組み～オリンピックが変える東京」をテーマに行政機関や企業などを訪問し、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（東京2020大会）に向けた取り組みを学んだ。同プログラムは、草の根交流事業の一環として中国の有力大学の学生に日本の産業や文化を学ぶ機会を提供するもので、2015年に開始し今回が4回目。プログラムに参加したのは、中山大学、暨南大学、広東外語外貿大学、華南農業大学、華南師範大学、華南財経大学の学生で、いずれも今回が初めての来日。

パナソニックは1988年の冬季オリンピックから30年にわたりスポンサーを務めており、同社では、東京2020大会に向けて技術と各種ソリューションを駆使し「未来の暮らし」を提案するとの説明を受け、ショールームで「仮設型式ミストシステム」による暑さ対策などを体験した。

セコムでは、セキュリティ・防災・メディカルなど各種サービスを融合させた「社会システム産業」の構築を体験するため、顔認証システムによる登録のうえ、ショールームに入場し、飛行船やドローンを活用した競技場監視体制の説明を聞いた。

東京地下鉄では、1927年に開業した上野駅で中国語や英語による対応や、7カ国の言語で路線図や観光スポットを検索できる券売機の紹介を受け、バリアフリー設備に対応した多機能トイレも見学した。

LIXILでは、住宅建材や設備機器を豊富にラインナップする資料館を見学し、中国においても品質・環境を重視した事業を行うなどの積極的なグローバルな事業展開を学んだ。

アシックスでは、同社国内最大の直営店舗で実際に足型を計測し、ランニングフォーム測定システムを体験した。

東京都立川市の東京消防庁航空隊では、ヘリコプターによる消火活動や、山岳地帯や水難時の捜索・救助活動の説明を聞き、隣接する立川防災館では、地震体験コーナーに加え、救出救助コーナーで人命救助のシミュレーションも体験した。

学生たちは、一連の訪問で得た情報や率直な印象を随時、中国で広く使われているSNS「微信（WeChat）」で中国全土に発信した。

以上



パナソニックセンター東京を見学した訪日団

一般財団法人 経済広報センター 国際広報部

〒100-0004 東京都千代田区大手町 1-3-2 経団連会館 19 階

電話：03-6741-0031

<http://www.kkc.or.jp/> ※本稿の無断転載を禁じます。